

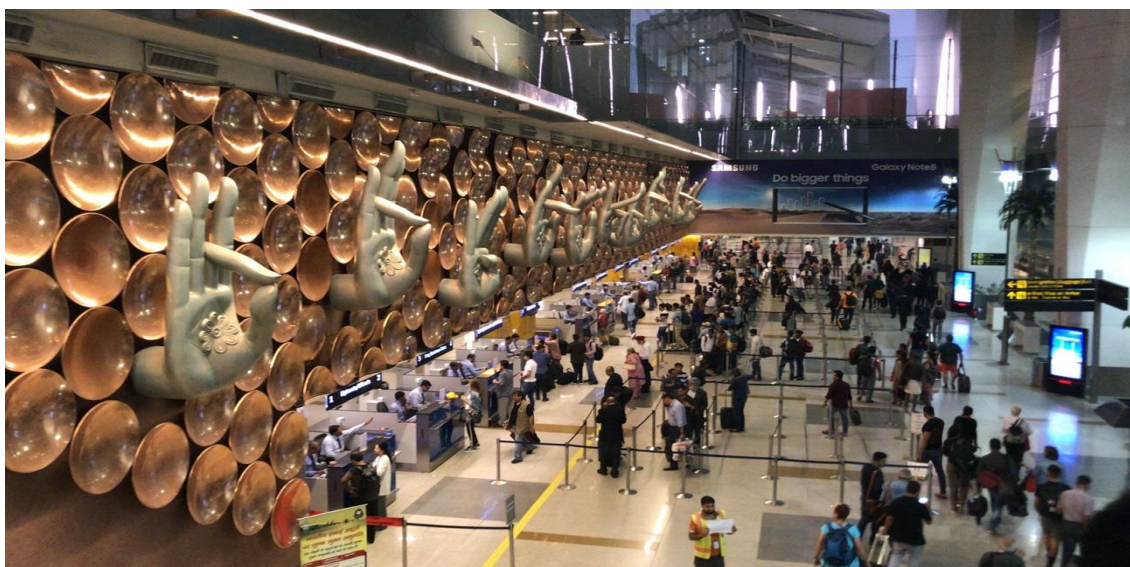
### 3年間ありがとうございました

私事ですがこの3月をもって石川県に帰任することになりました。2017年3月に赴任して丸3年、東南アジア各国で取り組んだ業務や現地で感じたことなどを拙筆ながら書き綴ってきましたが本稿が最後の執筆となります。これまでは主に仕事内容をお伝えしてきましたが、最後の駐在員便りでは赴任中で最も印象に残ったインドでの体験についてお話ししたいと思います。

シンガポールに赴任したてのころ、自身の海外経験値を上げるため、そして話のネタを収集するため、週末時間を見つけては単身で弾丸旅行をしていました。色々な国を訪問しましたが後にも先にインド以上に刺激を受けた国はありませんでした。現地にはインド人しかいませんが、個性が爆発した人間が圧倒的なボリュームでいるため、評判通りのカオスっぷりでした。

出発前、シンガポールの知り合いからは身の心配をされ、換金所のインド人にも「一人でインドに行くのか！？気をつけろよ」と笑われながら忠告されました。シンガポールの知り合いはインドで殴られて所持金を全て奪われた経験があるようで、「絶対現地の人を信じないで！」というアドバイスを貰い、大きな不安と興奮の中、インドに向けて出発した事を今でも覚えています。

インドには夜9時過ぎに到着し、独特なオブジェとインド特有の強烈な香りが私を迎えてくれました。空港からホテルまでは何のトラブルもなく移動することができましたが、宿泊先は安宿だったので古いウインドエアコンの騒音と野犬の遠吠えがするボロボロの部屋で一晩を過ごしました。インドの水はシャワーを浴びるだけでもお腹を壊すと聞いていたので、さっとシャワーを浴び、財布や携帯は枕の下に入れ、いつでも逃げ出せる準備をして眠りにつきました。



独特な雰囲気オブジェ（インディラ・ガンディー国際空港）

翌日は朝から夕方まで首都デリーを観光し、最終電車によって今回の旅の目的地「世界遺産タージマハル」に向けて出発しました。通常 2 時間半でアグラ（タージマハルのある都市）に到着するところ、トラブル続出（出発遅れ、電車の故障、強制途中下車等）で結果 6 時間ほどかかり、到着したのは午前 2 時過ぎでした。電車を降りると駅のホームの地べたで男女構わずたくさん人が寝ていて強烈なインパクトを受けました。さらに疲労困憊の中、ホームを出るとタクシーの客引きインド人が大勢いて、強引に腕を掴まれ自分のタクシーに乗るよう話かけてきます。こうした客引きの中には観光客に「宿が臨時休業した」とか、「この道が通行止めで迂回の必要がある」とか嘘をついて、グルになっているぼったくり宿や人気の無いところに連れて行き、パスポートや所持金を奪ってしまうようです。駅前のカオスから脱出し、午前 4 時過ぎに何とかホテルに到着しました。



駅のホーム、男女構わず地べたで就寝

翌日、朝一でタージマハルを見学し、その後は現地のドライバーからオススメされたインドの伝統工芸（象嵌のようなもの）を見学しました。ものづくりの現場を見ていたら、奥にある秘密の扉に通され、大きなショールームで高価な工芸品の売り込みをされました。とても怪しかったのですが記念に工芸品一点を購入しました。おそらく適性価格から 4 万円ほどはぼったくられた気がします。インドでは提示額の半額に値切るところから交渉スタートらしいのですが、それを知らずにまんまと購入してしまいました。とても悔しかったですが、ポジティブに考えて良い勉強ができたと思っています。



クラフトマスター達、役割分担してものづくり

翌日アグラからデリーに戻り（帰りの電車も2時間遅れ）、お世話になった現地旅行エージェントのおじさんに挨拶に行きました。おじさんと話をしていると、一人の日本の大学生が深刻そうな顔つきでやってきて、そのおじさんに何か相談をしていました。その後、その大学生と話してみると、客引きのタクシードライバーについて行った結果、田舎に連れて行かれてパスポートや財布などを全て取られ、現在大使館と帰国方法を相談している最中とのこと。おじさんにはフライトチケットの手配について相談しに来たようで、全てのインド人に対して疑心暗鬼になっており、絶望した表情をしていました。その顔を見て同情するとともに、比較的平和な日本の物差しをそのまま海外に持ってくると非常に危険な目に会う事を改めて実感させられました。

これ以外にも数多くのハプニングがありましたが、こんなインドに無理やり飛び込んだ事で価値観や知識、インド人との付き合い方などアップデートすることができました。まとめとして少し無理矢理で恐縮ですが、こんな経験も含めて今後の石川県全体の海外展開や国際交流等に少しでも活かしていけたらと考えています。

これまで、ここシンガポールをベースにマレーシアやタイ、ベトナム等でも一生懸命「石川県」をプロモーションしてきました。おかげで周りには手を差し伸べてくれる仲間もたくさんできました。シンガポール政府が掲げる言葉「Passion made possible」を胸に、石川県庁に戻っても県政の発展に引き続き取り組んでまいります。

最後に、この3年間、県内企業の皆様をはじめ東南アジア各国の企業・機関・団体の方々、石川県人会の皆様、そのほか多くの方々に支えていただき仕事に取り組むことができました。この場をお借りして心から感謝申し上げます。